

**令和4年度
第2回枚方市スポーツ推進審議会**

スポーツ実施率（指標項目）

週1日以上スポーツに取り組む成人の割合

37.6%



1.2%減少

36.4%

（令和9年度までに65%程度）

週3日以上スポーツに取り組む成人の割合

17.4%



0.5%減少

16.9%

（令和9年度までに30%程度）

“する” “みる” “ささえる” スポーツからみたアンケート結果

“する” スポーツ

回答者の属性が65歳以上の割合が高く、「現在行っている運動やスポーツ」でも、“ウォーキング” (53.1%) や体操” (29.3%) などといった負担の少ない運動・スポーツが高くなっている。また、「運動等をしなくなった理由」は、“年を取ったから” “が平成28年度より(12.3%)増となっている。

《運動やスポーツをあまりしていない理由
(上位3項目) 問9》

仕事・家事・育児学業等が忙しい	49.1%(51.1%)
年をとったから	33.0%(20.7%)
機会がなかった	25.1%(23.3%)



“みる” スポーツ

・「新型コロナウイルス感染症終息時の直接観戦意向」は、“観戦したい” が(49.3%)と高くなっている。
・「ホームタウンで活動しているチームの認知度」では、“両チームともに知っている” が(21.3%)、“FCティアモ枚方のみ” が(1.6%)、“パナソニックパンサーズのみ” が(37.3%)である。そのうち、“両チームともに観戦したことがない” が(84.3%)と高い数字となった。

《新型コロナウイルス感染症の収束時の直接観戦意向 (上位3項目) 問27》

観戦したい	49.3%
オンライン観戦等でよい	22.6%
関心がないため観ない	22.1%



“ささえる” スポーツ

・「スポーツボランティア活動の参加有無」は、“行っていない” (86.1%)となっている。「スポーツボランティア活動に参加したくなる動機づけ」は、“時間に余裕ができれば” (36.1%)で、“参加したい活動があれば” が(28.8%) “どんなきっかけがあっても参加しない・できない” (27.5)%となった。

《スポーツボランティア活動に参加したくなるような動機づけ (上位3項目) 問30》

時間に余裕ができれば	36.1%
参加したい活動があれば	28.8%
どんなきっかけがあっても参加しない	27.5%



今回、新しくアンケートに追加した項目

障害者スポーツとの関わり

「障害者スポーツへの関心度」は、“関心がある、やや関心がある”が合計で(29.7%)であり、「関心を持ったきっかけ」は、“東京2020パラリンピック競技大会を見たから”が(45.3%)となっていることがわかる。

《障害者スポーツへの関心度 問34》

関心がある	7.7%
やや関心がある	22.0%
関心がない	20.3%
あまり関心がない	29.4%

新型コロナウイルス感染症がスポーツに与える影響

「新型コロナウイルス感染拡大による運動・スポーツによる環境の変化」は、“特に変化はない”が(47.7%)と高かったが、一方で“自らスポーツの実施を控えた”(9.7%)や“自宅等の屋内で運動・スポーツを行うことが多くなった”(12.5%)なども一定数あった。

《新型コロナウイルス感染拡大による運動・スポーツ環境の変化》(上位4項目)問21》

特に変化はない	47.7%
自宅等の屋内で運動・スポーツを行うことが多くなった	12.5%
緊急事態宣言などにより、自らスポーツの実施を控えた	9.7%
スポーツ施設が休館していたため活動ができなかった	8.4%

スポーツに関する情報の入手方法

「枚方市のスポーツ情報の入手先」としては、“広報ひらかた”(63.0%)と多く、続いて施設等にある“ポスター・チラシ”(13.1%)、“市のホームページ”(11.3%)となった。また、「知りたい情報」は、“健康や体力づくりに関する情報”(34.3%)、“スポーツができる場所などの施設情報”(21.4%)となった。

《枚方市スポーツ情報の入手先 (上位3項目) 問37》

広報ひらかた	63.0%
施設等にあるポスター・チラシ	13.1%
市のホームページ	11.3%

《枚方市のスポーツ情報に知りたい情報 (上位3項目)問38》

健康や体力づくり	34.3%
スポーツができる場所などの施設情報	21.4%
スポーツ教室の情報	15.9%

第1章 中間評価にあたり

1. 中間評価の趣旨
2. 計画の位置づけ
3. 計画の期間と進行管理
4. アンケート結果の総評
5. 前期(平成28年度～令和3年度)の振り返り
6. 中間評価にあたっての視点

⇒詳細は5・6ページ

第2章 スポーツを取り巻く環境

1. 社会情勢の変化
2. 国・府の動向
3. 枚方市のスポーツの現状

⇒詳細は7・8ページ

第3章 枚方市のスポーツ推進に向けた取組み

1. 計画の基本理念
2. 後期に取り組むべき施策

⇒詳細は9～11ページ

第4章 計画の推進

1. 推進体制
 - (1)各主体の役割
 - (2)スポーツ関係団体と行政との役割
2. 進行管理

資料編

1. 中間評価の趣旨

- 平成29(2017)年3月の「枚方市スポーツ推進計画」策定から5年が経過
- 本計画の推進期間である平成29(2017)年度～平成39(2027)年度)について、中間年度となる令和4年度に、それまでの取組状況について総括するとともに、施策の洗い出し・改善点の検証を行い、社会情勢の変化やスポーツをめぐる環境を踏まえ、後期に取り組むべき方向を定める。

2. 計画の位置づけ

- スポーツ基本法第10条第1項に基づくスポーツの推進に関する計画
- 「第5次枚方市総合計画」におけるスポーツ推進に関する施策目標のための取組みを具体化する分野別計画
- その他、「第2期大阪府スポーツ推進計画」をはじめ、市の健康増進計画、障害者計画、高齢者保健福祉計画、子ども・子育て支援事業計画など、関連計画と連携した施策を推進

3. 計画の期間と進行管理

- 計画期間:平成29(2017)年度から令和9(2027)年度までの11か年
- 進行管理:本計画の施策の方向性に沿って、スポーツ施策に関わる所管部門が、毎年度事業を立案し、それに基づき推進

4. アンケート結果の総評

- 中間評価の実施にあたり、令和4(2022)年10月に調査した各種調査の結果から、世代別や性別による市民の運動習慣や意識等に関する主な結果の抜粋

5. 前期（平成28年度～令和3年度）の振り返り

- 現行計画記載の取組の方向について、進捗状況などの評価を記載

6. 中間評価にあたっての視点

I 健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進

- ライフステージに応じたスポーツにかかわる機会の充実（世代に応じてスポーツに親しみ、楽しめる機会の充実）
※第3次大阪府スポーツ推進計画第3章1の柱参照
- 新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした、スポーツ活動の変化への対応
- 安全・安心に取り組める環境 ※第3期スポーツ基本計画重点施策11参照

II 子どものスポーツ活動の充実

- 子どものスポーツ環境の充実 ※アンケート【問33】より、“子どものスポーツ環境が不足している”が50.8%
- 学校部活動の充実 ※部活動の段階的な地域移行

III 多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実

- 地域スポーツの充実 ※第3次大阪府スポーツ推進計画第3章1の柱参照
- 障害者スポーツへの理解・参加の促進 ※第3期スポーツ基本計画の重点施策8参照
- 多様な運動能力やニーズに対応するスポーツの種目の多様化（スポーツの志向の多様化）
※第3期スポーツ基本計画1の施策参照

IV スポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化

- ビックイベント等の開催を契機とした“みる”スポーツへの機運を継続するための取組み
※アンケート【問27】より、“新型コロナウイルス感染症収束時の直接観戦意向”が約49.3%であった
- ホームタウンスポーツチームを通じた“みる”スポーツへの関心を高める取組み
※アンケート【問28】より、ホームタウンのスポーツチームである“FCティアモ枚方及びパナソニックパンサーズをと
もに知らない”と回答した割合が約35.8%であった

1. 社会情勢の変化

- 人口減少と少子高齢化の進行による、スポーツに参加する人や支える担い手の減少
- 国民の健康志向の高まりや健康寿命の延伸への取組の推進
- 2020東京オリンピック・パラリンピックの開催をはじめとするスポーツに関するビッグイベントの開催
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴うスポーツを含むイベント等の開催自粛や行動規制、働き方や生活様式の変化
- グローバル化の進展、ICT（情報通信技術）などのデジタル技術革新の進展によるスポーツの捉え方の多様化
- スポーツの力を生かした地域活性化の各地での取組の推進 など

2. 国・府等の動向

■国「第3期スポーツ基本計画」策定（令和4(2022)年3月）

1. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」

スポーツをつくる/はぐくむ 社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

スポーツであつまり、ともに、つながる 様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

スポーツに誰もがアクセスできる 性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成

2. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

- ◆①多様な主体におけるスポーツの機会創出
- ◆②スポーツ界におけるDXの推進
- ◆③国際競争力の向上
- ◆④スポーツの国際交流・協力
- ◆⑤スポーツによる健康増進
- ◆⑥スポーツの成長産業化
- ◆⑦スポーツによる地方創生、まちづくり
- ◆⑧スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆⑨担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
- ◆⑩スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」
- ◆⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保
- ◆⑫スポーツ・インテグリティの確保

■その他の動向

◆「障害のある人のスポーツ活動を支援する～障害者のスポーツ活動推進プラン～」策定（文部科学省 障害者活躍推進プラン5）（平成31(2019)年3月）

◆運動部活動の地域移行

令和5(2023)年度の開始から令和7(2025)年度末を目途に、休日の運動部活動からの段階的な地域移行が示された。

◆スポーツ団体ガバナンスコード（一般スポーツ団体向け）の策定（令和元(2019)年8月）

◆体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン～性的指向・性確認(SOGI)に関する理解を深めるために～（令和4(2022)年10月）

◆新型コロナウイルス感染症の拡大によるスポーツ活動の変化

◆スポーツに関するビッグイベント（東京2020オリパラ、デフリンピック2025）の開催

◆「スポーツ実施率向上のための行動計画」の策定（平成30(2018)年9月）

日常生活の中で自然にスポーツに親しむ「スポーツ・イン・ライフ」の実践により、スポーツの価値の享受、健康増進、健康寿命の延伸による健康長寿社会の実現



◆「第3次大阪府スポーツ推進計画」の策定（令和4(2022)年3月）

“楽しさ”を計画全体を貫くキーワードとして設定

「スポーツ楽創都市、大阪」～スポーツとともに成長し、楽しさあふれる大阪へ～

万博やSDGsなどの視点を盛り込みつつ、スポーツ資源を観光や食等の大阪の“強み”と組み合わせた、幅広い分野にわたってスポーツとともに人とまちが成長する施策を展開

取組課題	施策の方向	具体的施策(案)	内容
I 健康増進・健康寿命の延伸をめざす生涯スポーツの推進	(1) スポーツに気軽に親しめる環境づくり	①市民のスポーツ活動の推進 ②就労世代や子育て世代の身近なところでのスポーツ実践への支援 ③若年層の自由な身体活動の促進 ④スポーツに関する情報発信 <u>⑤スポーツにおけるDXの推進</u> <u>⑥スポーツの実施における安全・安心の確保</u>	<u>⑤スポーツにおけるDXの推進</u> 第3期スポーツ基本計画「2. スポーツ界におけるDXの推進」 ・スポーツに係るデータの集約・解析、様々な課題への活用等 ・地域で孤立している人や健康上等の理由で外出が困難な人等、多様な主体が平等にスポーツを実施できるよう、デジタル技術を活用 ※VRやAR等のデジタル技術を活用してスポーツを新たな方法で楽しむ機会の創出やリモートによる体操教室の提供等について検討する。 <u>⑥スポーツの実施における安全・安心の確保</u> 第3期スポーツ基本計画「11. スポーツを実施する者の安全・安心の確保」 ・スポーツ分野におけるあらゆる暴力・不適切指導等の根絶を図る ※社会問題化しているスポーツにおける暴言・不適切指導等の根絶やアスリートに対する性的ハラスメントの防止など、スポーツを実施する市民の心身の安心・安全を確保する環境づくりが必要である。
	(2) スポーツを通じた健康づくり	①スポーツを通じた成人の健康増進の推進 ②スポーツを通じた介護予防活動の推進 ③地域でのスポーツ・レクリエーション活動の充実	
II 子どものスポーツ活動の充実	(1) 子どもがスポーツを楽しむための条件整備	①家族等で楽しむスポーツ活動の充実 ②子どもを対象としたスポーツ活動の充実 ③幼稚園・保育所(園)、認定こども園、小・中学校等における体力向上の取組の推進 ④野外活動センターにおける青少年の健全育成 ⑤学校部活動の充実(<u>部活動の地域移行を含む</u>)	<u>⑤学校部活動の充実(部活動の地域移行を含む)</u> (令和4年11月17日に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示される) ※本市においても、学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備が必要である。

取組課題	施策の方向	具体的施策(案)	内容
	(1) 地域スポーツの充実	①地域におけるスポーツ関係団体との連携・支援	<p>①地域におけるスポーツ関係団体との連携・支援 第3期スポーツ基本計画「10. スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源を最大限活用し、スポーツの場、プログラム、指導者等の充実 ・総合型クラブやスポーツ少年団の体制強化や役割の拡大により、より幅広いニーズに応えられる地域スポーツ環境を構築 <p>※アンケートでは、問43【運動・スポーツが個人や社会にもたらす効果】で、“人と人との交流の促進”が58.0%となっている。</p> <p>枚方市スポーツ協会をはじめ、スポーツ推進委員、スポーツ少年団など、スポーツ関係団体との連携により、地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる環境の構築が求められている。</p>
Ⅲ 多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実	(2) 障害者のスポーツの促進	<p>①障害者のスポーツ活動への支援の充実</p> <p>②障害者のスポーツ・レクリエーション活動の充実</p> <p>③障害の有無に関わらずともスポーツを楽しむ環境整備</p>	<p>③障害の有無に関わらずともスポーツを楽しむ環境整備 第3期スポーツ基本計画「8. スポーツを通じた共生社会の実現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツの実施環境を整備し、非実施層に対する関心を高めることや障害者スポーツの体験などによる一般社会に対する障害者スポーツの理解啓発に取り組むことにより、人々の意識が変わり、共生社会が実現されることを目指す <p>※問35【障害者スポーツの体験有無】で“体験したことがない”が91.5%となっていることから、体験会などを通じて、多くの市民に、まずは障害者スポーツに触れてもらうなどの取組を進める必要がある。</p>
	(3) スポーツ資源の充実と活用	<p>①スポーツ施設の整備・充実</p> <p>②効率的なスポーツ施設の運営と利便性の向上</p> <p>③学校体育施設の開放</p> <p>④公園緑地の利活用の促進</p>	

取組課題	施策の方向	具体的施策(案)	内容
	(1) 各種競技スポーツのレベルアップ	①ジュニア期からの育成支援 ②指導者の確保・育成及び活動支援 ③スポーツボランティアの育成と活用 ④総合型地域スポーツクラブへの支援	
IVスポーツ関係団体や企業と行政が協働したスポーツ推進体制の強化	(2) プロスポーツとの交流促進	<u>①ホームタウンのスポーツチームなどとの連携による“みる”スポーツの推進</u> <u>②スポーツによる地域経済活性化</u>	<u>①ホームタウンのスポーツチームなどとの連携による“みる”スポーツの推進</u> ホームタウンのスポーツチームなどの試合を観戦するなど、市民がトップレベルの競技に触れる機会を増やし、スポーツや参加の楽しみを通して、地域への愛着・地域の活性化や、スポーツの実施機会を創出するきっかけづくりとするなど、“みる”スポーツの取組の重要性が高まっている。 ※アンケート結果では、問28「ホームタウンチームの試合観戦有無と愛着」“両チームともに観戦したことがない”が84.3%と高い数字となっており、ホームタウンのスポーツチームとの連携した取組が必要である。 <u>②スポーツによる地域経済活性化</u> 第3期スポーツ基本計画「7. スポーツによる地方創生、まちづくり」 ・コンテンツの開発の推進 ・スポーツ・健康まちづくりの推進 ※観光・文化資源など地域資源を有効に活用したスポーツイベントを実施することで、誘客による交流人口の拡大、幅広い関連産業の活性化や関連消費の拡大など、スポーツというコンテンツを通じて、地域経済活性化に寄与する取組を、スポーツによるまちづくりに活かしていく。

取組課題	施策の方向	《国》第3期スポーツ基本計画					
		する	みる	ささえる	つくるはぐくむ	あつまりともにつながる	誰もがアクセスできる
I 健康増進・健康寿命の延伸をめ ざす生涯スポーツの推進	(1) スポーツに気軽に親しめる 環境づくり	●	●				●
	(2) スポーツを通じた健康づく り	●					
II 子どものスポーツ活動の充実	(1) 子どもがスポーツを楽しむ ための条件整備	●				●	
III 多様なニーズに対応したスポー ツ環境の充実	(1) 地域スポーツの充実			●	●		
	(2) 障害者のスポーツの促進	●				●	●
	(3) スポーツ資源の充実と活用	●	●	●			●
IV スポーツ関係団体や企業と行政 が協働したスポーツ推進体制の 強化	(1) 各種競技スポーツのレベル アップ			●	●	●	
	(2) プロスポーツとの交流促進		●			●	●